

人種差別が進むドイツの日常は、オペラ界にも影を落としているか？ #エキスパートトビ

中東生 エキスパート | Global Press会員ジャーナリスト、コーディネーター

5/26(月) 10:01 5 共有



© ManoloPress_MichaelBode

ドイツ東部では人種差別が進んでいるという話を聞くが、偶然、ドイツの国民的オペラとして名高い「魔弾の射手」を観に行ったバーデン・バーデンで、人種の壁を感じるシーンに遭遇した。

バス下車時にドアが開まってぶつかって泣く子供の父親（アフリカ系）が運転手を避けている間、バスの中のドイツ人老婦は彼のドイツ語を冷笑し、去った後には運転手に、警察を呼ぶようしつこく迫った。

こんな光景を目の当たりにすると、ドイツ人が誇るオペラのヒロインをアフリカ系歌手が歌う公演に不安も過ったが、杞憂に終わった。



ココがポイント

このオペラが出发点（中略）ワーグナーも、9才の頃、ウェーバー自らの手でこのオペラを指揮した公演を観て（中略）強く支持
出典：わかる！オペラ情報館

初演は大成功を収め、瞬く間に世界中を席捲しました。（中略）作曲家はドイツの国民オペラの創始者といわれています。
出典：新国立劇場

最近では西部でも外国人嫌悪が増加している。調査によると、回答者の5人に1人が外国人に対して否定的な感情を持っている
出典：ニュースウィーク日本版 World Voice 現地発・新世代ブロガーがつくるプラットフォーム 2025/3/28(金)

エキスパートの補足・見解

一般に保守的なオペラファンだが、この公演は純粋に音楽を基準にして歌手を認める姿勢に希望が持てた。

この「魔弾の射手」は指揮者アントネッロ・マナコルダが率いるボツダム室内アカデミーのツアーで、バーデン・バーデン祝祭劇場は公演地の1つだ。純ドイツ的エーファを歌ったのはアフリカ系アメリカ人のゴルダ・シュルツで、その完全な静を秘めた歌唱に、人種の壁を感じさせる余地はなかった。エーファを愛するあまり魔弾の誘惑に負けてしまうマックス役もイタリア系アメリカ人のチャールズ・カストロノーヴォだが、この役には贅沢な声の鳴りを誇った。悪魔と取引して消されるカスパー役のカイル・ケテルセンもアメリカ人だが、今や様々なドイツオペラに引っ張り鼠の存在となっている。エンヒエン役のニコラ・ヒルブランドは主要な役の中で唯一のドイツ人だが、聴衆は皆を対等に扱い、全員が高レベルな歌唱を聴かせた。合唱のRIAS室内合唱団は、いつも期待に応える実力を備えており、オーケストラも若手が多いがうまくまとまっていた。演奏会形式で舞台装置も衣装もないが、緊張感漲る公演となった。

観客の拍手も温かく、好演すれば人種を問わない音楽界にホッとした。

トピックス（主要）

- 母のお腹の中で被爆 伝えたい思い
- 米特使とフーチン氏 巡り会談
- おにぎり食べ集団食中毒 4人入院
- 海で14歳溺れ 一時心臓停止も回復
- マネードクターに業務改善命令
- 虫だらけの部屋で児童寝させ 謝罪
- 捨てられた大量のポケカ 民泊惨状
- DeNA藤浪が大荒れ「ずっと課題」

オーサーアクセスランキング

- 『ドッキリGP』やす子への犬失跡
ドッキリはなぜ反発を生んだ？
「許される企画・許されない企画」の境界線 #エキスパートトビ
田辺ユウキ 8/5(火) 10:01
 - ラーメンやすき焼き、お寿司でも。外食業界で食べ放題が過熱する訳とは #エキスパートトビ
三輪大輔 8/6(水) 7:01
 - 最低賃金の大幅引き上げで、経済に与える影響は？ #エキスパートトビ
今野晴貴 8/5(火) 14:21
 - 『ドッキリGP』に参む、いじめやバウハラに憑る構図 『モータリング』と対照的なサプライズ #エキスパートトビ
武井保之 8/6(水) 7:10
 - フワちゃんは戻ってこられるのか。復帰へのカギとは #エキスパートトビ
中西正男 8/5(火) 12:46
- PR 日本生命の地域貢献活動
地域課題解決のお手伝いをしたい！みんなと「にっせーのせ！」で育む未来
news.yahoo.co.jp

広告

記事に関する報告

この記事はいかがでしたか？

学びがある わかりやすい 新しい視点

中東生 エキスパート

Global Press会員ジャーナリスト、コーディネーター

東京芸術大学卒業後、ロータリー奨学生として渡欧。ヴェルディ音楽院。チューリッヒ音楽大学大学院。スイスオペラスタジオを経て、スイス連邦認定オペラ歌手の資格を取得。その後、声域の変化によりオペラ歌手廃業。女性誌編集部に10年間関わった経験を生かし、環境政策に関する記事の伊文和訳、独文和訳を月刊誌に2年間掲載しながらジャーナリズムを学ぶ。現在は音楽専門誌、HP、コンサートプログラム、CDブックレット等に専門分野での記事を書くとともに、ロータリー財団の主旨である「民間親善大使」として日々を結ぶ数々のプロジェクトに携わりながら、文化、社会問題に関わる情報発信を続けている。